

7. 郷土芸能を通じた高齢者の交流と生きがいつくり

グループ名 唐桑大漁唄込復活推進実行委員会

代表者 鈴木 伸太郎

① 活動の目的

- ・ 震災復興に併せ、地域への誇りと愛着心を取り戻すこと
- ・ 歴史に裏付けられた地域文化を未来へと伝承していくこと
- ・ 地域に生きる意味を、郷土芸能に親しみながら再確認したい
- ・ 活動を通じ、高齢者相互の交流と生きがいつくりにつなげたい

② 活動概要

○これまでの活動内容

- ・ 震災前までは各団体独自に継承活動を続けてきました。
- ・ 震災後、郷土芸能4団体がまとまって活動する組織を結成しました。
- ・ 仮設住宅での被災者慰問活動や地元公演を実施し、復興への思いを共有しました。
- ・ 県庁所在地の仙台市での公演を行い、都市部高齢者の皆さんとの交流の機会を持ちました。

○グループの概要

- ・ 気仙沼市唐桑町は古くから漁業を生活の糧とし、海の文化が育まれてきた町です。
- ・ その代表格として活動してきた「大漁唄込み」関連の4団体が大同団結し「地域への誇りと愛着心を取り戻す」を合言葉に活動を続けています。
- ・ 構成団体は以下の4団体です。
- ・ 鮎立大漁唄込保存会、崎浜大漁唄込保存会、神止七福神舞保存会、唐桑濱甚句保存会

○今回の補助申請に至った経緯

- ・ 本会を構成する4団体は、東日本大震災以前はそれぞれ独自の伝承活動を続けておりました。
- ・ 震災後は復興の一助とするために大同団結し力を合わせることにより、以前よりも大規模な活動が実施でき、集客力を増すようになりました。
- ・ これまでも、仮設住宅での慰問活動や地元公演を行い、高齢化が進む被災地で必死に復興に立ち向かおうとする人たちを精神面から支えてきました。
- ・ 前年度も気仙沼市民会館大ホールを会場に、郷土芸能劇～唐桑ものがたり～を上演し、海の文化の奥深さと地域に暮らす意味を少なからずお伝えすることができまし

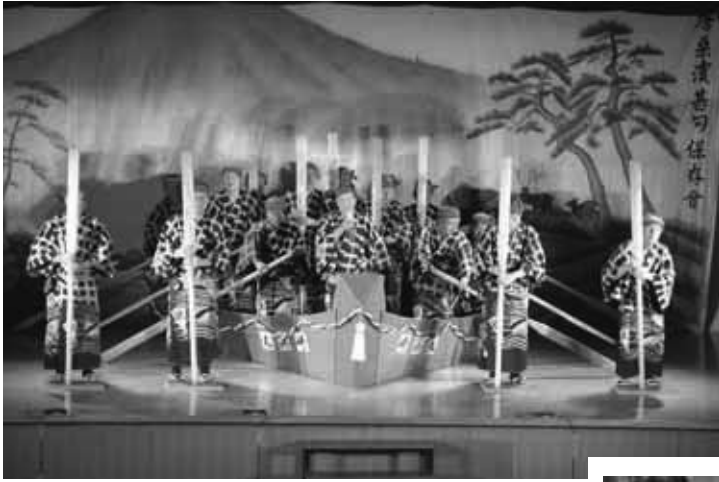
た。

- ・ 本年度もこれまでの活動を土台に、更なる活動の発展を目指していきたいと思いますので、何かとご支援賜りますようお願い申し上げます。

○今回の事業の成果

- ・ 太平洋に突き出た私どもの地域は広範囲に集落が点在していることから、特に高齢者にとって市内中心部の会場で開催される催しに参加するための移動手段確保が最大のネックとなっておりました。
- ・ 今回の助成を得られたことで大型バス 2 台の運行がなされ、移動手段確保が図られたことは、高齢者にとって最大のプレゼントだったと思います。
- ・ 当初予定していた気仙沼市民会館が大規模改修の関係で使用できなかったことから、唐桑町内の保健福祉センターで 2014 年 12 月 6 日(土)に地元公演が開催されました。
- ・ 保健福祉センターには音響、照明設備が備わっていなかったことから、その設備費の一部に今回の助成をあてることができました。
- ・ 地元公演の成功をばねに、2015 年 3 月 22 日(日)には仙台公演を実施し、大きな成果を収めました。





③ 決算報告書

摘 要	金 額
収 入 大同生命厚生事業団助成金	200,000
支 出 (2015.12.6 開催、地元公演開催費用として支出)	
バス借上料(有限会社黒沢観光、大型2台)	136,670
音 響 費(伊藤拓也、音響設備およびオペレーション)	100,864
照 明 費(東北共立、照明装置およびオペレーション)	324,864
広告印刷費(オクト小笠原、広報チラシ A4 版 5,000 枚)	60,000
支 出 合 計	622,398

